

令和 3 年 2 月 19 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校 園 コー ド (代 表 者 校 園 の 市 費 コー ド)
732665
選 定 番 号
146

代 表 者	校 園 名 :	大 阪 市 立 墨 江 丘 中 学 校
	校 園 長 名 :	林 憲 治 郎
	電 話 :	0 6 - 6 6 7 4 - 3 6 1 2
	事 務 職 員 名 :	尾 上 綾 香
申 請 者	校 園 名 :	大 阪 市 立 墨 江 丘 中 学 校
	職 名 ・ 名 前 :	教 諭 橋 口 徳 治
	電 話 :	0 6 - 6 6 7 4 - 3 6 1 2

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 2 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究 (1 年目)
2	研究テーマ	体験型探求学習による教育の効果			
3	研究目的	○体験型、探求学習による問題解決能力の向上と学びの定着率を調査する。 ○すべての子どもたちが認め合える教育活動の展開 ○「いのち」をテーマとしての人権教育、SDGs に即した持続発展教育の展開 ○アドベンチャー教育で、初めて出会う生徒、特別支援生徒とのチームビルディングによる社会認知と、共に問題解決に挑む力を育む。 ○アドベンチャー教育による多様な学びの調査 (教科教育) ○日本における一般公立中学校でフルインクルーシブ教育の可能性を探る。 ○不登校、いじめなど現代的な教育課題の改善により安心で安全な学校づくり			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシツク 10ホイント) ○住吉区役所・住吉消防署・大阪市消防局消防学校と探求型災害体験学習の実施 令和 2 年 8 月 11 日 ○関西大学人間健康学部と墨江丘中学校と共同して、関西大学浅香山キャンパスのアドベンチャーエリアを使った校外学習の実施 教職員研修会の実施 令和 2 年 11 月 9 日 ・ 関西大学人間健康学部の学生からのチームビルディング授業の在り方研修 11 月 11 日～13 日 ○株式会社マーベラスラボオンラインミーティングの実施 令和 2 年 12 月 20 日 ○玉川大学タツプ アドベンチャープログラム ミーティング会議 令和 2 年 12 月 4 日 企業が求める人材と体験型活動による効果と変化の報告資料についての成果報告会 令和 2 年 12 月 5 日・1 月 7 日・2 月 6 日 ○校内研修会、授業研修会を年間 3 回以上実施し教育手法の講習会を実施する。 オンラインの導入も含め、オンライン活用、オンラインでは補えない教育活動とを明確に分類する講習会の実施、または生活指導スキル研修会を実施した。令和 2 年 12 月 3 日 12 月 8 日 ○各学年アドベンチャープログラムを用いた総合学習を行い、協同的学習の学びの取り組みを行った。(なぎなた探求学習・オンライン探求授業・部活動地域貢献活動・SDGs の取り組み) 令和 2 年 10 月 5 日～28 日 ・ なぎなた授業 全日本なぎなた連盟より講師派遣し教職員研修会の実施 ・ 元汎愛高等学校 国体出場選手の実演指導依頼 体験型教育活動の実技指導研修会 ○人権体験学習の実施 (チームで考える車いす体験・盲目体験・妊婦体験など) 令和 2 年 11 月 21 日 ○3 年生全生徒 普通救命救命講習会受講 普通救命取得 令和 3 年 1 月 13 日 ○主体的体験型 オンライン授業の実施 令和 3 年 1 月 9 日 令和 3 年 2 月 10 日 ○オンライン研究発表会の開催 ハイブリッド型研究発表会の実施 令和 3 年 2 月 16 日 本年度、新型コロナウイルス感染予防のため予定していた各施設の体験、視察等の出張が計画されていたものが中止された。			

5	成果・課題	<p>大阪市教育局振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果１】</p> <p>大阪市立墨江丘中学校学校教職員の授業力の向上に貢献する。体験時の生徒の様子、体験前後の生徒のアンケートの集約から、生徒のインクルーシブ教育における気持ちの変容を探る</p> <p>《検証方法》</p> <p>保護者、生徒アンケートのわかりやすい授業の評価ポイントを昨年度より平均５ポイント上昇させる。 生徒アンケートの実施。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>令和元年 授業が分かりやすいと回答した生徒、保護者、教職員の平均値が７６．３％に対して、令和２年度の同項目に関しての平均値が７９．５％となり、３．２％上昇した。生徒・保護者の平均値だけでは（令和元年６８．８％）⇒（令和２年７３．５％）４．７％上昇する結果となった。体験学習の取り組み予定だった回数が、コロナ禍の中で回数や制限がかかる中での実施となったが、「人間関係づくり」を体験を通じて実施することにより安心、安全な意識が生まれお互いが認め合える集団が構築でき、結果、授業がわかりやすいという項目に関しての向上となったと考える。</p> <p>【見込まれる成果２】</p> <p>学びの定着度に関する研究を実施し、教員自らの指導方法の見直し、またアクティビティの活用を授業内でも構築し、教師が生徒への学び方、指導方法の見直しを行う。</p> <p>《検証方法》</p> <p>事前調査アンケートを実施し、子どもたちの学び方に関する実態調査を行い、学習の定着尺度の設定を行い、分析を行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>生徒の学び方に関する項目で、授業のわかりやすさ、質問のしやすさ教職員との信頼関係において昨年度と比較すると平均７％上昇することができたが、新型コロナウイルス感染予防のため特に前半部分では、学習保障の観点から本校はＴＲＹの学習教材を定着する方向性となり学びの多様性としては今回選択肢が多くなった。また、ＩＣＴ、オンライン授業の学び方の工夫、どのようにして集中力を保たせられるか？オンライン授業の学びの適正人数など検討が進み、今後さらに試行錯誤の回数を積み重ね検討することが今後の課題となった。</p> <p>【見込まれる成果３】</p> <p>問題解決能力アクティビティを実施することにより、先生と生徒、生徒同士の信頼関係をより深く構築することができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校アンケート「先生に質問をしやすいですか？」「先生のことを信頼していますか？」の項目を３ポイント以上上昇させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>上記項目の令和元年のアンケート平均値６５．２％に対して、本年度のアンケート結果は７０．２％と飛躍的に上昇した。体験を通じて学ぶことにより、協同的な共感が生まれラポール（信頼関係）が築きやすいということがわかる。本年は特にコロナで、個別最適化教育が重視される時間となったことも、先生との会話、対話が多くあったことも上昇したことに繋がっていると考えている。</p> <p>【見込まれる成果４】</p> <p>大阪市教職員アンケートの学び方、学ぶ方法を模索することができより大阪市の学力の向上、学校活性化につながる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>研究発表会で、学ぶ方法について再検討する項目を作り、自分の授業スタイルを再検討する項目を６５％以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>研究発表会では、「感情を動かす授業が心に残る」というポイントを参加者同士で研究協議を行った。学力重視の点数が上がる授業をすべきか、生きる力、生き抜く力の教育を先行すべきか？また授業時間を上記２点をポイントに置いたとき割合はどれくらいがいいのか、など参加者同士で議論することができた。参加者に研究発表会における授業スタイルの再検討、再思考に関するアンケートは９５％を超える結果となった。</p>
---	-------	---

5	成果・課題	<p>【見込まれる成果 5】</p> <p>不登校生徒を各学年平均 7 名以内と、学校の居場所、人間関係づくりを進める。</p> <p>《検証方法》</p> <p>不登校生徒数を昨年度旧 2 年生 8 名、旧 1 年生 11 名の人数を各学年 7 名以内の平均人数になるようにする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>本校の不登校生徒の現状は、1 年生 7 名、2 年生 14 名、3 年生 8 名（病気など以外の 30 日以外の欠席生徒）平均 9.6 人となった。緊急事態宣言で 2 カ月の休校期間、分散登校、また教育活動の制限があり思うような「仲間づくり」「学級づくり」本来なら一泊移住などで学級集団などでの関係作りを行うことが、本年度はできなかった。不登校という概念が今後変わろうとしている部分もあり学習方法は多岐に渡っている現状を踏まえ、1 教室を不登校生のタブレット端末を使った自学自習室の設置などを行い対応を行った。学び方については変わりつつある時代に、評価方法なども含めて今後考える必要がある。</p>			
		<p>【見込まれる成果 6】</p> <p>本研究発表会の発表内の満足度「本研究が満足した」の項目を参加者から 90% 以上の満足度を達成する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>本研究発表会でのアンケート項目で参加者全員からアンケート調査を行う。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>本研究発表会での満足度は 95% で有意義な研究発表会となった。本研究だけの気づきではなく、普段授業している先生方が抱えている悩みや、不安を校内だけにとどまらず意見交流する機会を設けることが今後、大阪市の教育の発展へと大きく繋がると確信した。授業への考え方、教え方を独自で考えるだけでなくシェアし検証することが校内だけに留まらず、大阪市や区などで教科別での検討会議などを設定することが今後、子どもたちの生き抜く力の育成につながると思う。</p>			
		<p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>【成果】（1）アドベンチャー教育「探求体験学習」で、チームで与えたミッションをクリアすることで、自然と「仲間意識」「コミュニケーション」などが生まれ人間関係作りの向上に役立つだった。（2）生徒のアンケートから人間は感情が動く経験、体験をより多く入れることが長期記憶や人生の豊かさに繋がることの発見があった。（3）コロナでより分断が加速する中で、五感を使った学びが貴重であり、時代が変わっても残り続ける教育活動の 1 つであることが本研究で鮮明となった。（4）学校評価の数値的アンケートでも昨年度と比較してほとんどの項目で上昇する結果となった。【課題】（1）説明型の形式だった授業では無く、感情を動かす仕掛け、声掛け、質問、コーチング手法の導入が必要である。（2）高等学校等の進路進学という入試のシステム上「得点力」を高めることも重要であり、体験活動の意義や授業内で探求型の体験的教科指導の開発、導入をを深めていくことが急務である。教育振興計画の安心、安全な学校づくりのためには不可欠な生徒間の関係作りを迫り、教師自らが探求していく</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>本研究の中で、大学の施設を使用しての 15m の高さからジャンプするなどの体験を通じて、普段みられない様子をみることができた。また、フルバリュー（お互いの安全と安心・認め合う心）という考え方を体験を通じて学ぶことがお互いの関係性構築に大いに役立ち、また新しい発想や提案に繋がり「自立」した生徒の育成に繋がった取り組みでした。学校運営でも、教師自らが探求することの重要性を理解し、様々な企画、研修などが行われ互いの授業力の向上に繋がっていると考えている。本年度はコロナウイルスの関係で他府県への出張が延期、中止されることが多く、今後も継続して研究を進めていくことを期待し</p>			
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和 3 年 2 月 16 日		
		参加者数	約 67 名		
		場所	大阪市立墨江丘中学校		
		備考	大阪市オンラインシステム Microsoft Teams を使ったのオンライン+本校多目的室での対面とのハイブリット型研究発表の開催となった。		